

地域の未知を

解き明かす

地域遺産の収集・調査により、積み重ねられる地域の知の集合体。山に降った雨の一滴一滴がやがて大きな川になるように、モノとモノが結びついて描かれる物語は、時とともに少しずつ形を変えながら今日もこのまちに流れている。

着々と増える収藏品

那須野が原博物館の収藏品の数は約7万8千件。着々と地域遺産が蓄積され、開館から5年後の平成22年時点と比べると登録数は2倍以上に増加している。保管には一定の温度・湿度が求められる。収蔵庫の確保は課題の一つである。収藏品の内訳は、昆虫を含む「動物」分野が約4万件と最も多く、「歴史」分野が1万9千件と続く。歴史分野では、那須野が原開拓に関する資料の収集が重点的に進められている。

資料から紐解かれる歴史

かつて「手して掬う水もなし」と描かれるほど不毛の大地であった那須野が原。この土地が転機を迎えたのは明治時代。数多くの欧米型大規模農場の誕生と、それに続く国家プロジェクト「那

須野が原開拓」の実施に端を発する。

その原動力となったのが土地の有力者・印南文作と矢板武。彼らが設立した那須開墾社や栃木県令・三島通庸みちのりによる三島農場など、開拓を進めた農場の文書が博物館には多数収蔵されている。那須開墾社文書や三島家文書と呼ばれるそれらの古文書は、博物館の貴重なコレクションの一つであり、現在も地道な研究が進められている。

来年開催予定の特別展「華族たちの那須野が原農場プロジェクト」では、ペリー来航以降の日本の西洋化の流れと、この地域で設立された大規模農場の関連などを紹介する予定だ。

知ることで広がる視点

明治時代、牛肉と同様に文明開化によって生活に浸透していった牛乳。明治4年には、天皇が牛乳を飲んだこと

が報じられるほど珍しい飲み物だったという。現在この地域を特徴づける酪農業は、明治期の開拓にその萌芽が見て取れる。高橋由一の『鑿道八景』には、三島農場で牛が放牧されていた様子が描かれており、那須開墾社文書には明治初期に塩原温泉の旅館へ牛乳を配達した記録が残されている。そして、現在は生乳生産本州一のまちである那須塩原市。百年以上前の人の営みが、今も空気のようにこの地域に息づいていることが伺える。

地域の遺産を収集し、日々地道な調査研究を進めている博物館。それを組み合わせて展示し、私たちに新たな物語を紹介してくれる。その物語に触れた後には、これまでとは違ったモノの見え方が得られることだろう。



那須野が原開拓の歴史は博物館の常設展でも解説されている。住んでいるのに意外と知らない、地域の新しい一面を知ることができる。

来 9月15日
年 11月15日
特別展
華族たちの那須野が原
農場プロジェクト



高橋由一 鑿道八景



千本松農場の
トラクター



大山農場の牛舎と牛

来年の開催に向けて少しずつ準備が進められている。開催は2カ月間だが、それまでに膨大な準備期間があるのだ。

翌 2月1日
翌 2月28日
ギャラリー展
那須塩原市
レッドデータブック
2017



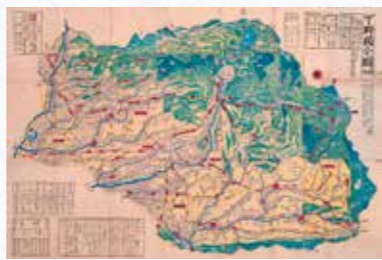
この地域で絶滅のおそれがある希少野生動植物をまとめた「那須塩原市レッドデータブック」。その刊行を記念して、博物館のエントランスギャラリーで作成の背景や市の地形の概要、選定結果の一覧などを紹介し、選定種や保全すべき地域などを解説します。

12月23日
翌 4月15日
移動展
みんなの
鉱物大百科



県内にかつて多くあった鉱山。そこで採掘された鉱物には、世界で初めて発見された新産鉱物や、世界的に希少な鉱物なども含まれています。今回の展示では、世界や県内で産出する代表的な鉱物の特徴や分類、産出場所、精錬方法などを紹介します。(写真：方解石、栃木県立博物館蔵)

10月7日
12月10日
企画展
あなたの知らない
古地図の世界



人々の生活や地形、街の移り変わりなど歴史とともに変わっていく地図。幕末期から昭和期までの地図を「古地図」と捉え、世界・日本・栃木の範囲別のコーナーと鉄道・温泉・お店など目的別のコーナーに分けて紹介します。もしかしたらあなたが知っている「地図」とは違う世界が広がっているかもしれません。

ふるさと
地域を知る旅に出かけよう！

